

2015/12/16

柏の景気情報（平成27年11月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 経営支援課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成27年11月分）

○ 調査期間 : 平成27年11月24日 ~ 12月4日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	81	51.9%
建設	44	23	52.3%
製造	33	18	54.5%
卸・小売	43	25	58.1%
サービス	36	15	41.7%

○ 調査方法 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。
と調査表

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成27年11月の調査結果のポイント】

◀業況DIは2ヶ月連続で悪化。先行きも足踏み状態▶

○11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲30.8(前月水準▲26.2)となり、マイナス幅が4.6ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲27.7(同▲33.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲21.7(同▲13.6)、卸小売業▲52.0(同▲44.0)、サービス業▲13.3(同▲6.6)である。

【建設業】からは、「従業員全てにマイナンバーが届き、必要書類に記入し社内での保管は完了。畳工事、畳縁バック共に売上は好調だが、採算が良くならないのは仕入単価が下がらないことが原因と考えている」(内装工事業)、「見積り依頼が増えているが、施工単価が下がっており、物件は増えているものの、受注が厳しい状況になっている。また、雨の日が多く、作業が出来なかったり、作業日・作業時間の規制も厳しく、一時的に人手不足が続いている。同業者からの手助けの依頼も多く、どこも段取りで四苦八苦しているようだ。受注単価が下がっている状況での人手不足はかなり深刻だが、増員する余裕がない」(その他の職別工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「売上高は昨年好調の裏返しで若干減少。但し一昨年同月よりは増加している」(食品・飲料品等製造業)、「新規の引き合いはあるが、なかなか取り引きに結び付かない」(一般産業用機械・装置製造業)、「価格の件で、インターネットを参考にした交渉をしてくる場合が増えて来ているが、弊社の仕事内容からすると、それに対応出来ない場合がある」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「今月発売のスイーツ限定プレミアムチケットに期待」(菓子・パン小売業)、「材料原価高につき、容量を下げてのパッケージ変更が多くなっている(加工食品会社、乳製品など)。業況としては、11月前半は好調に推移するも中旬以降は天候悪化もあり、衣料品(特に肌着)の売上が落ち込む。食品、住居は安定」(その他の各種商品小売業)、「青果物は秋が平年より気温が高かったため、葉物類の成長が早く、入荷量の増加など、野菜の相場が安値傾向に転じています。果実は天候不順などから入荷量が減少しているが、食味良好から価格は一部の商品は高めに推移しています」(食料・飲料卸売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「忘年会、新年会の予約が前年より早く入っております。しかし、いまだに金曜、土曜が集中しており、トータルでは前年と同じか、多少良くなりそうです」(酒場・ビヤホール)、「柏の葉の近隣に複合店舗(スーパー、ホームセンター、ドラッグストア)の工事が始まった。その南にオープンする大型スーパーも工事が始まった。おたかの森との競合で超激戦区となり、先行きは不安である。オープン時には、人手確保のための賃上げ競争が激化しそうです。メーカーの値上げは、一服したが、値上がり前の仕込みで在庫負担と資金繰りが厳しい。また、様子見をしていたメーカーが消費税10%を念頭に来春に掛けて値上げの予告があった」(その他の飲食料品小売業)、「賃貸居住者の車の保有率が近年明らかに低下し、付帯の駐車場の空きが増えました。車以外の交通手段の整備拡充(バスやTX)か、単に車離れなのか、原因は定かではありません」(不動産賃貸・管理業)、「年末、年度末に向けた作業が集中している。来年度は不明。中小企業の景況感はいまだ薄く、人手不足も深刻」(ソフトウェア業)、「売却希望客が徐々にですが増えています。問合せ件数は減少しています。購入に対して慎重になっています」(不動産管理業)などのコメントが寄せられた。

◎人手不足

各業種より、「仕事量は多くなっており、人手不足になってきている。品質保持をするには、人手の確保も考えなければならず、工期の延長が出ている」(電気工事業)、「人手不足は相変わらず続いているし、益々その状況は悪化するだろう。辞めない社風づくりが大切である」(各種食料品小売業)などのコメントが寄せられた。

◎天候不順

各業種より、「10月と比較して天候に恵まれなかった。衣料品は婦人・紳士とも、序盤の気温上昇もあって、冬物商材のコートなど、重衣料および防寒アイテムの動きが非常に鈍く苦戦」(百貨店)、「予想以上に気温が高い日が続いたため、冬物の売れ行きが良くなかった」(その他の各種商品小売業)などのコメントが寄せられた。

◎中国経済の影響

各業種より、「海外電気部品の値上がりにより収益に影響が出ている。中国での景況悪化の影響で、現地加工メーカーからの新規営業が増加している」(その他の機械・同部品製造業)、「中国関係の機械の売上が悪く、全体としても良くない」(その他の金属製品製造業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
6月	▲24.7	▲26.0	▲11.1	▲39.2	▲12.5
7月	▲19.7	▲25.0	±0.0	▲42.8	△14.2
8月	▲23.1	▲35.0	▲11.1	▲32.1	▲6.2
9月	▲20.2	▲21.7	▲5.5	▲35.7	▲6.6
10月	▲26.2	▲13.6	▲33.3	▲44.0	▲6.6
11月	▲30.8	▲21.7	▲27.7	▲52.0	▲13.3
見通し	▲22.2	▲8.6	▲33.3	▲40.0	±0.0

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成27年11月の業況についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲30.8(前月水準▲26.2)となり、マイナス幅が4.6ポイント拡大した。

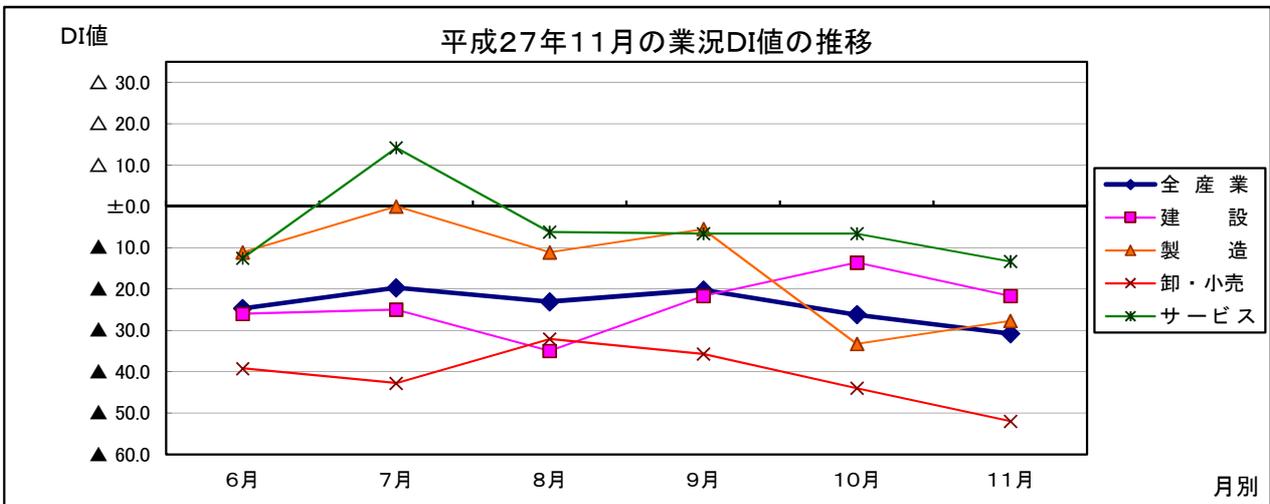
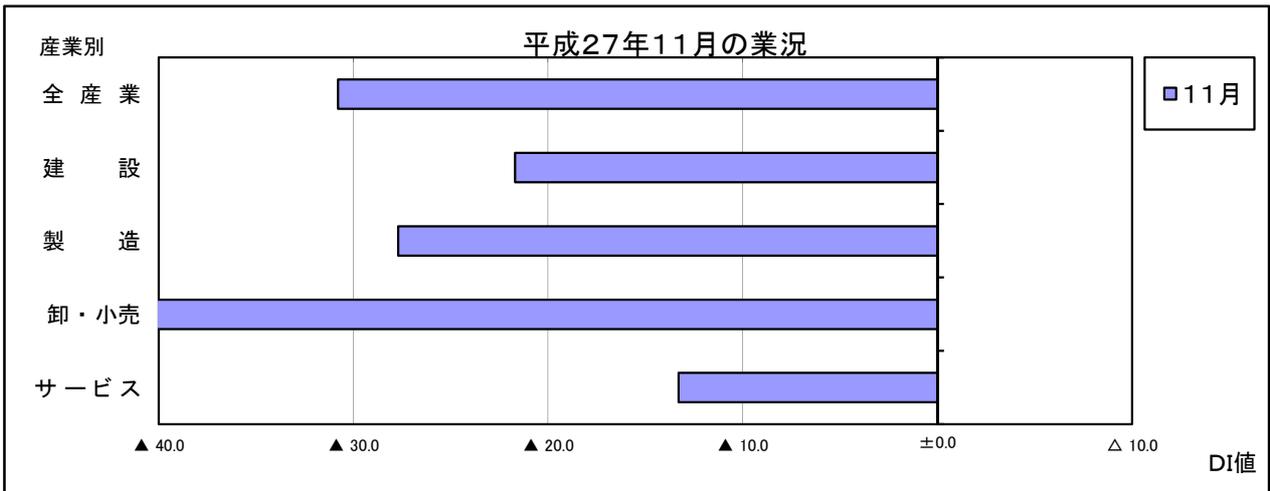
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲27.7(同▲33.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲21.7(同▲13.6)、卸小売業▲52.0(同▲44.0)、サービス業▲13.3(同▲6.6)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲22.2(前月水準▲20.0)となり、マイナス幅が2.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲8.6(同▲9.0)である。変わらない見通しの業種は、製造業▲33.3(同▲33.3)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業±0.0(同△6.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲40.0(同▲36.0)である。

平成27年11月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲24.7	▲19.7	▲23.1	▲20.2	▲26.2	▲30.8	▲22.2(▲20.0)
建設	▲26.0	▲25.0	▲35.0	▲21.7	▲13.6	▲21.7	▲8.6(▲9.0)
製造	▲11.1	±0.0	▲11.1	▲5.5	▲33.3	▲27.7	▲33.3(▲33.3)
卸・小売	▲39.2	▲42.8	▲32.1	▲35.7	▲44.0	▲52.0	▲40.0(▲36.0)
サービス	▲12.5	△14.2	▲6.2	▲6.6	▲6.6	▲13.3	±0.0(△6.6)



【平成27年11月の売上についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲27.1(同▲23.7)であり、マイナス幅が3.4ポイント拡大した。

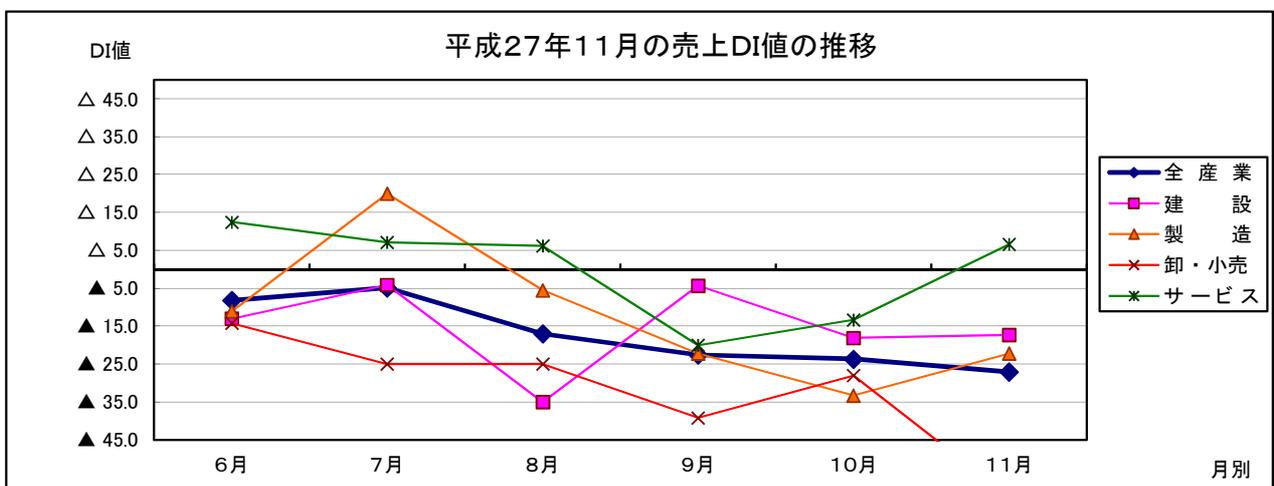
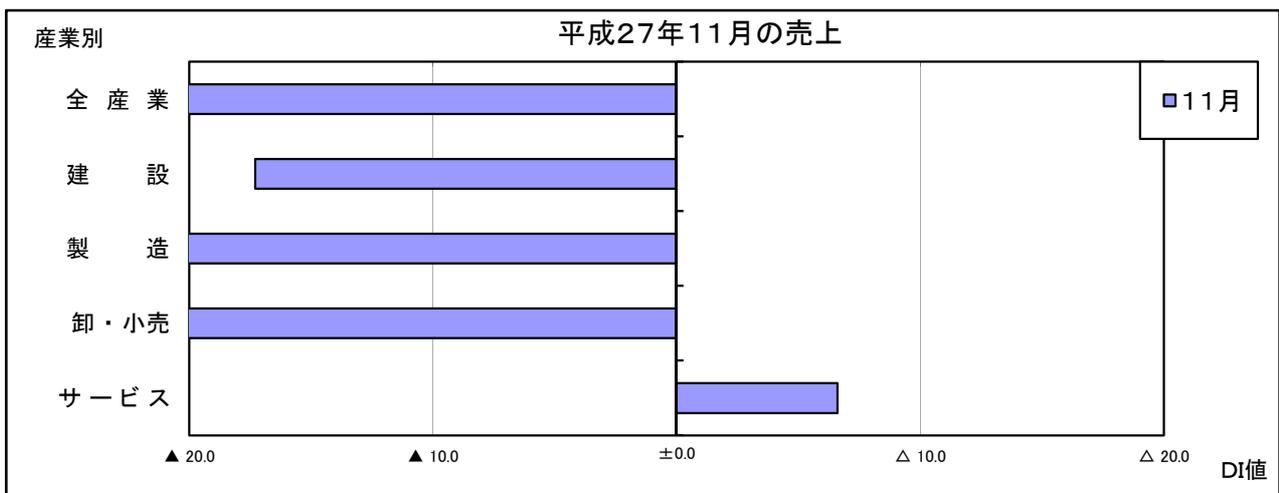
業種別では、マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業△6.6(同▲13.3)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲22.2(同▲33.3)、建設業▲17.3(同▲18.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲60.0(同▲28.0)であり、32.0ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲9.8(前月水準▲12.5)となり、マイナス幅が2.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業△17.3(同△4.5)である。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業△6.6(同▲6.6)である。変わらない見通しの業種は、製造業▲27.7(同27.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲32.0(同▲20.0)である。

平成27年11月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲ 8.2	▲ 4.9	▲ 17.0	▲ 22.6	▲ 23.7	▲ 27.1	▲ 9.8 (▲ 12.5)
建設	▲ 13.0	▲ 4.1	▲ 35.0	▲ 4.3	▲ 18.1	▲ 17.3	△ 17.3 (△ 4.5)
製造	▲ 11.1	△ 20.0	▲ 5.5	▲ 22.2	▲ 33.3	▲ 22.2	▲ 27.7 (▲ 27.7)
卸・小売	▲ 14.2	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 39.2	▲ 28.0	▲ 60.0	▲ 32.0 (▲ 20.0)
サービス	△ 12.5	△ 7.1	△ 6.2	▲ 20.0	▲ 13.3	△ 6.6	△ 6.6 (▲ 6.6)



【平成27年11月の採算についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲38.2(前月水準▲36.2)となり、マイナス幅が2.0ポイント拡大した。

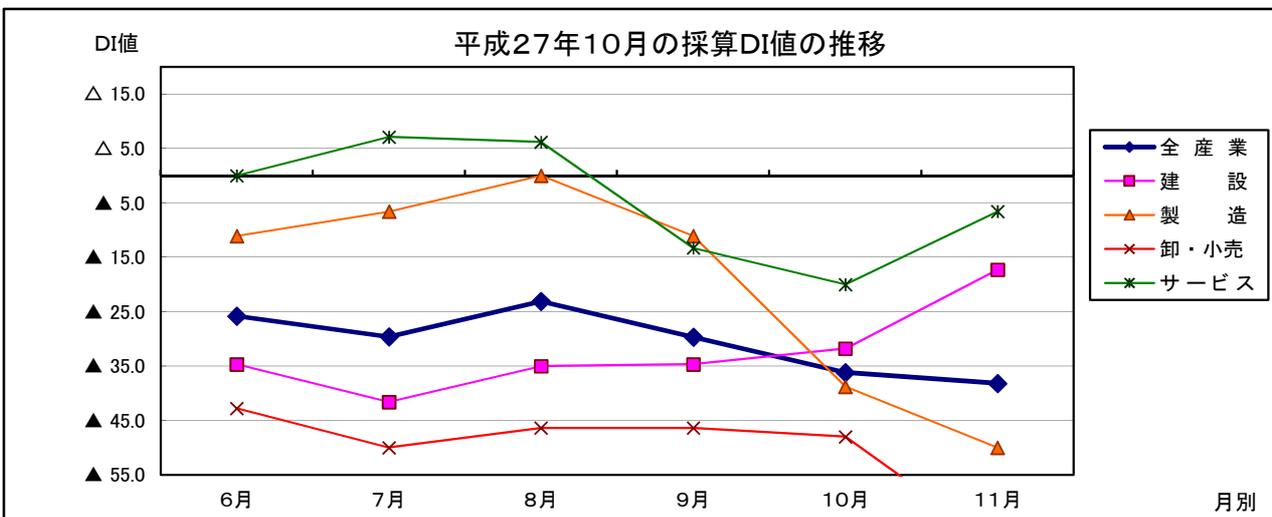
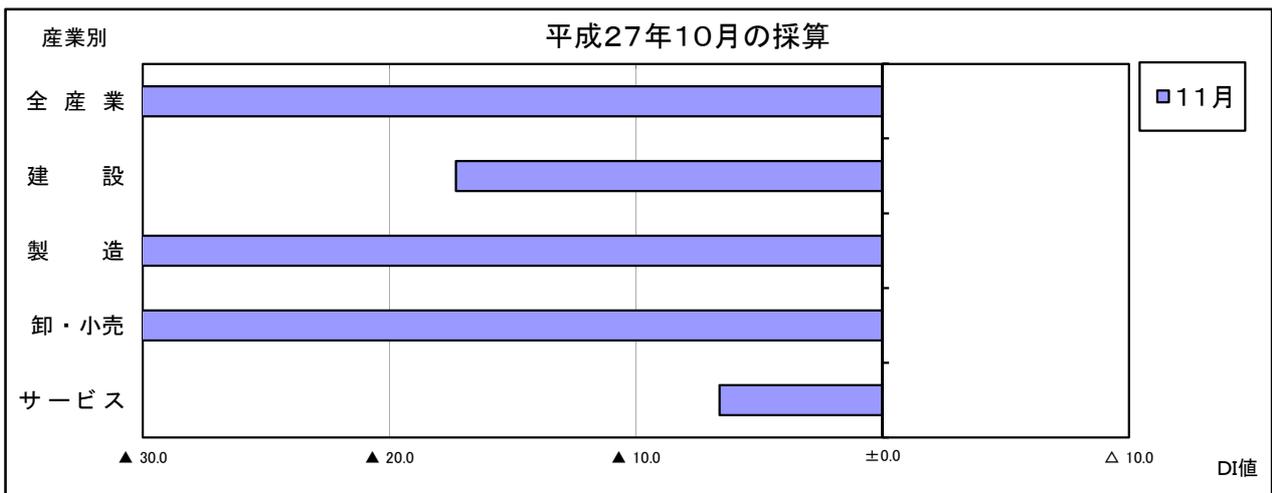
業種別では、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲17.3(同▲31.8)、サービス業▲6.6(同▲20.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲68.0(▲48.0)、製造業▲50.0(同▲38.8)であり、卸小売業では、20.0ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲22.2(前月水準▲26.2)であり、マイナス幅が4.0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲33.3(同▲44.4)、建設業▲4.3(同▲9.0)、卸小売業▲44.0(同▲48.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業±0.0(△6.6)である。

平成27年11月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲25.8	▲29.6	▲23.1	▲29.7	▲36.2	▲38.2	▲22.2(▲26.2)
建設	▲34.7	▲41.6	▲35.0	▲34.7	▲31.8	▲17.3	▲4.3(▲9.0)
製造	▲11.1	▲6.6	±0.0	▲11.1	▲38.8	▲50.0	▲33.3(▲44.4)
卸・小売	▲42.8	▲50.0	▲46.4	▲46.4	▲48.0	▲68.0	▲44.0(▲48.0)
サービス	±0.0	△7.1	△6.2	▲13.3	▲20.0	▲6.6	±0.0(△6.6)



【平成27年11月の仕入単価についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲34.5(前月水準▲27.5)となり、マイナス幅が7.0ポイント拡大した。

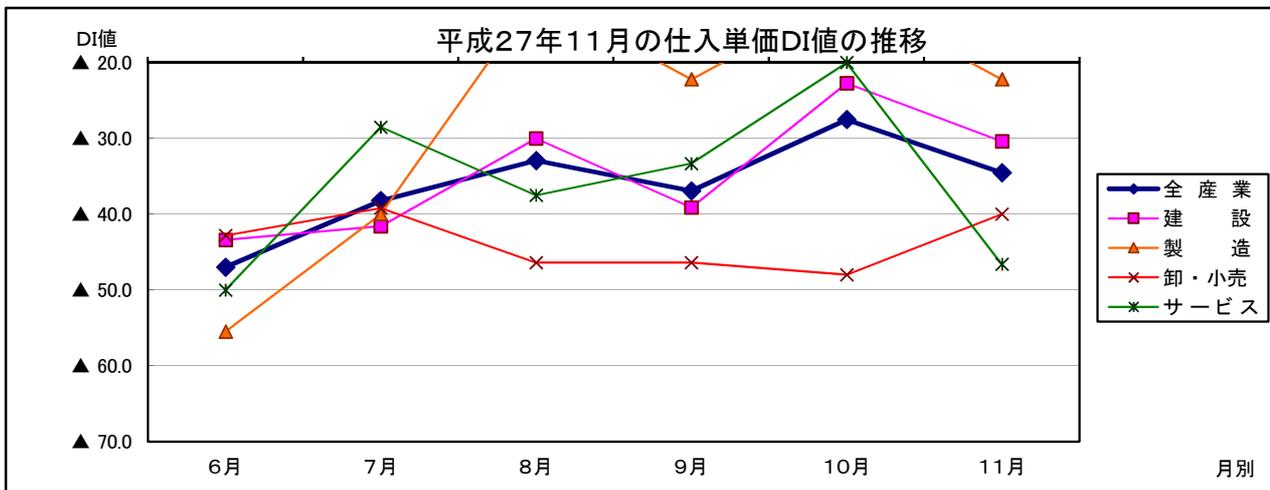
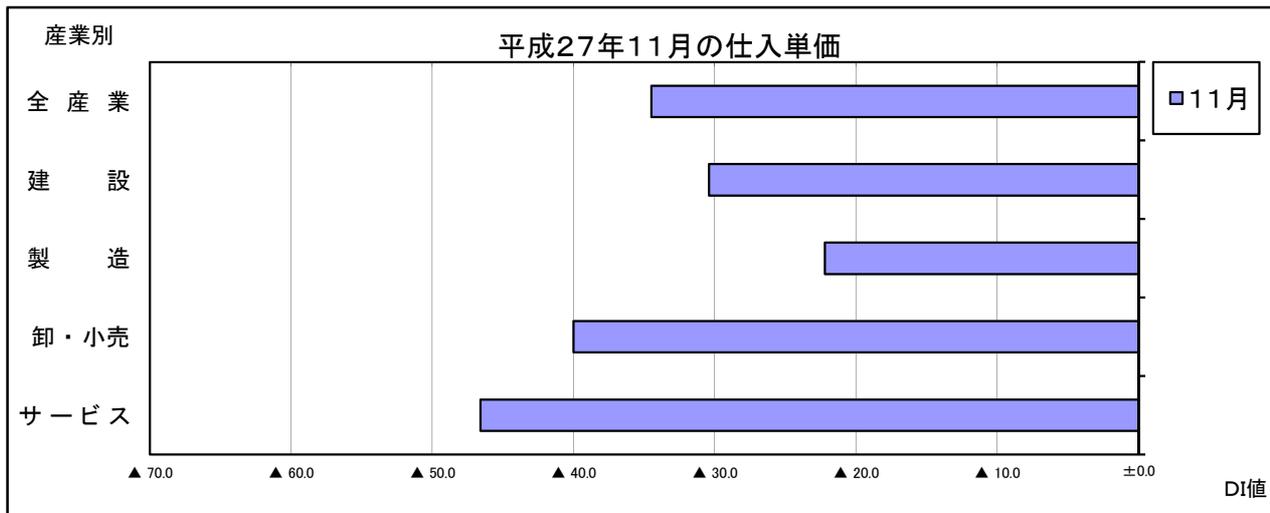
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲40.0(同▲48.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲46.6(同▲20.0)、製造業▲22.2(同▲11.1)、建設業▲30.4(▲22.7)であり、特にサービス業では、26.6ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲23.4(前月水準▲20.0)となり、マイナス幅が3.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業±0.0(同▲5.5)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲17.3(同▲18.1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲33.3(同▲20.0)、卸小売業▲40.0(同▲32.0)である。

平成27年11月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲47.0	▲38.2	▲32.9	▲36.9	▲27.5	▲34.5	▲23.4(▲20.0)
建設	▲43.4	▲41.6	▲30.0	▲39.1	▲22.7	▲30.4	▲17.3(▲18.1)
製造	▲55.5	▲40.0	▲11.1	▲22.2	▲11.1	▲22.2	±0.0(▲5.5)
卸・小売	▲42.8	▲39.2	▲46.4	▲46.4	▲48.0	▲40.0	▲40.0(▲32.0)
サービス	▲50.0	▲28.5	▲37.5	▲33.3	▲20.0	▲46.6	▲33.3(▲20.0)



【平成27年11月の従業員についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△11.1(前月水準△7.5)となり、プラス幅が3.6ポイント拡大した。

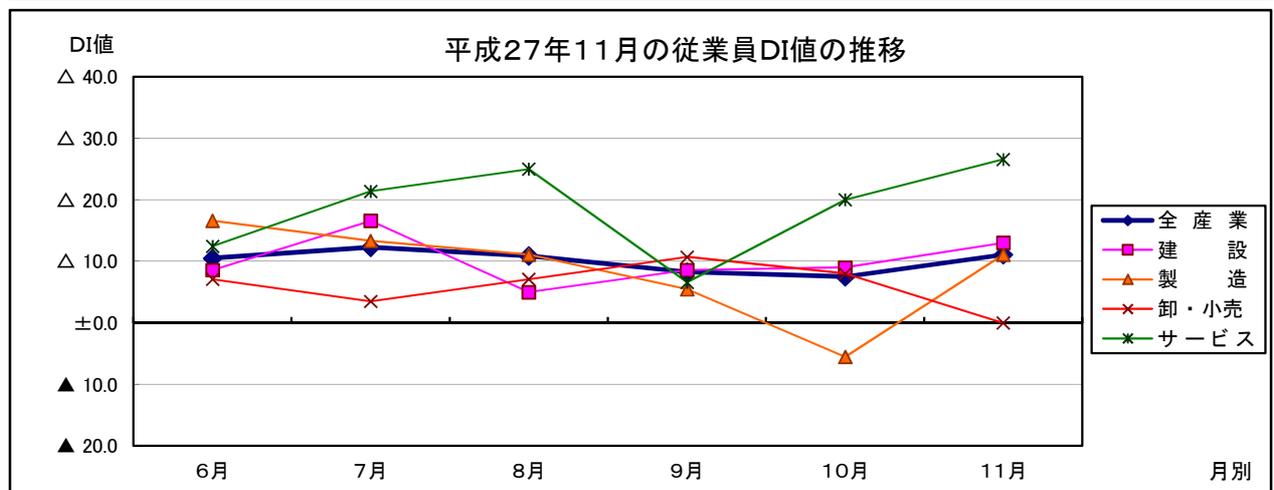
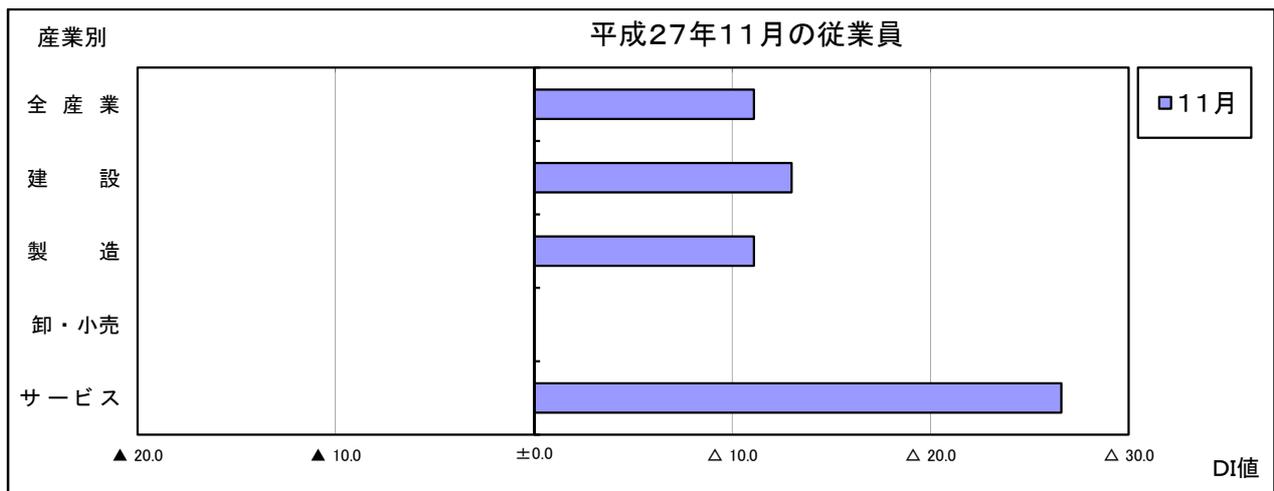
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業△26.6(同△20.0)、建設業△13.0(同△9.0)である。マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△11.1(同▲5.5)である。プラス幅が縮小した業種は、卸小売業±0.0(同△8.0)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、△17.2(前月水準△11.2)であり、プラス幅が6.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、全ての業種でプラス幅が拡大する見通しであり、幅の大きい順に、卸小売業△12.0(同△4.0)、サービス業△33.3(同△26.6)、製造業△5.5(同±0.0)、建設業△21.7(同△18.1)である。

平成27年11月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成27年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	△10.5	△12.3	△10.9	△8.3	△7.5	△11.1	△17.2(△11.2)
建設	△8.6	△16.6	△5.0	△8.6	△9.0	△13.0	△21.7(△18.1)
製造	△16.6	△13.3	△11.1	△5.5	▲5.5	△11.1	△5.5(±0.0)
卸・小売	△7.1	△3.5	△7.1	△10.7	△8.0	±0.0	△12.0(△4.0)
サービス	△12.5	△21.4	△25.0	△6.6	△20.0	△26.6	△33.3(△26.6)



【平成27年11月の資金繰りについての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲14.8(前月水準▲8.7)となり、マイナス幅が6.1ポイント拡大した。

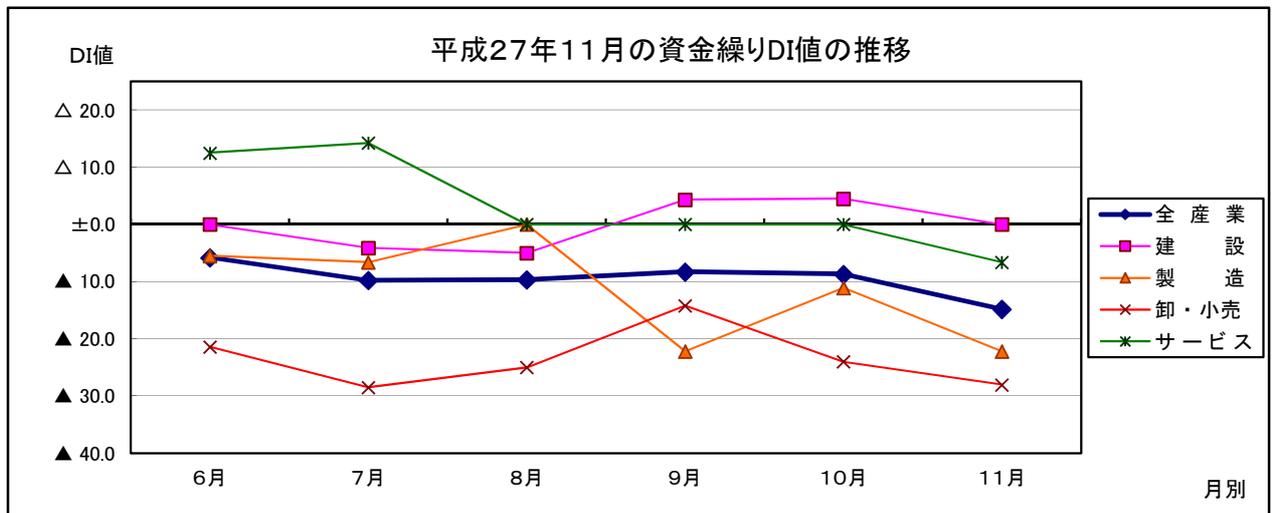
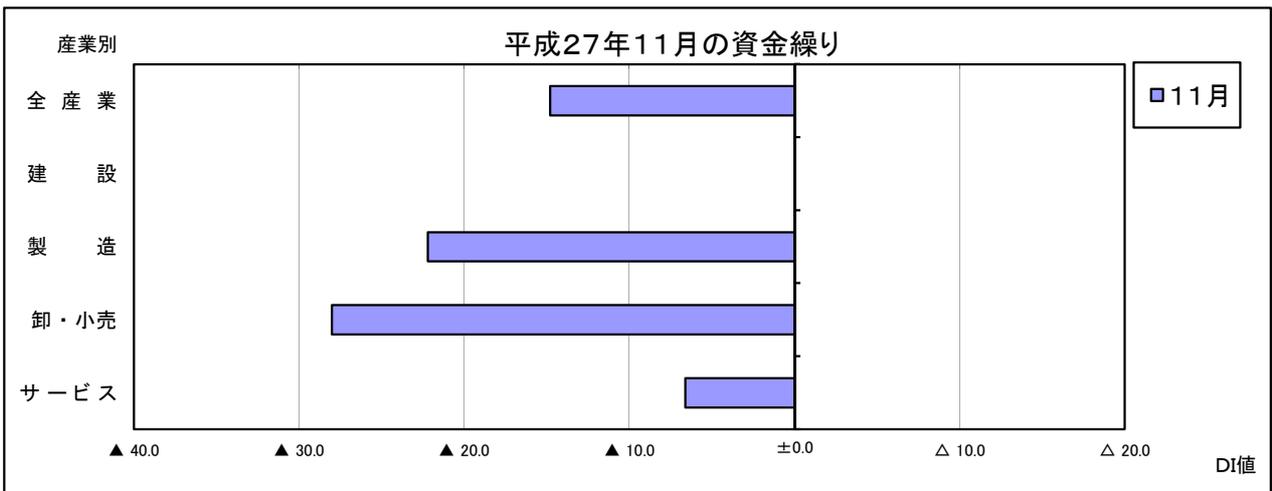
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小した業種は、建設業±0.0(同△4.5)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲6.6(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲22.2(同▲11.1)、卸小売業▲28.0(同▲24.0)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲8.6(前月水準▲2.5)となり、マイナス幅が6.1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業±0.0(同△6.6)、建設業△8.6(同△9.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲22.2(同▲5.5)、卸小売業▲20.0(同▲16.0)である。

平成27年11月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成27年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲5.8	▲9.8	▲9.7	▲8.3	▲8.7	▲14.8	▲8.6(▲2.5)
建設	±0.0	▲4.1	▲5.0	△4.3	△4.5	±0.0	△8.6(△9.0)
製造	▲5.5	▲6.6	±0.0	▲22.2	▲11.1	▲22.2	▲22.2(▲5.5)
卸・小売	▲21.4	▲28.5	▲25.0	▲14.2	▲24.0	▲28.0	▲20.0(▲16.0)
サービス	△12.5	△14.2	±0.0	±0.0	±0.0	▲6.6	±0.0(△6.6)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 27.1	▲ 9.8	▲ 38.2	▲ 22.2	▲ 34.5	▲ 23.4	△ 11.1	△ 17.2
建設	▲ 17.3	△ 17.3	▲ 17.3	▲ 4.3	▲ 30.4	▲ 17.3	△ 13.0	△ 21.7
製造	▲ 22.2	▲ 27.7	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 22.2	±0.0	△ 11.1	△ 5.5
卸・小売	▲ 60.0	▲ 32.0	▲ 68.0	▲ 44.0	▲ 40.0	▲ 40.0	±0.0	△ 12.0
サービス	△ 6.6	△ 6.6	▲ 6.6	±0.0	▲ 46.6	▲ 33.3	△ 26.6	△ 33.3

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 30.8	▲ 22.2	▲ 14.8	▲ 8.6
建設	▲ 21.7	▲ 8.6	±0.0	△ 8.6
製造	▲ 27.7	▲ 33.3	▲ 22.2	▲ 22.2
卸・小売	▲ 52.0	▲ 40.0	▲ 28.0	▲ 20.0
サービス	▲ 13.3	±0.0	▲ 6.6	±0.0

【平成27年月11業種別業界内トピックス】

業種別	概況	キーワード	業種
建設	大型ショッピングモールの出店に伴う人材募集の時給が1,000円以上の影響が他企業の募集時給ヘジワジワと波及してきている。	大型ショッピングモール出店 人材募集(高時給)の影響	板金金物工事業
	仕事量は多くなっており、人手不足になってきている。品質保持をするには、人手の確保も考えなければならず、工期の延長が出ている。	仕事量増加 人手不足 工期の延長	電気工事業
	従業員全てにマイナンバーが届き、必要書類に記入し社内での保管は完了。畳工事、畳縁バック共に売上は好調だが、採算が良くならないのは仕入単価が下がらないことが原因と考えている。	マイナンバー 売上好調 不採算 仕入単価上昇	内装工事業
	見積り依頼が増えているが、施工単価が下がっており、物件は増えているものの、受注が厳しい状況になっている。また、雨の日が多く、作業が出来なかったり、作業日・作業時間の規制も厳しく、一時的に人手不足が続いている。同業者からの手助けの依頼も多く、どこも段取りで四苦八苦しているようだ。受注単価が下がっている状況での人手不足はかなり深刻だが、増員する余裕がない。	施工単価下落 天候不順 人手不足	その他の職別工事業
製造業	原材料の価格が下落しているようだが、在庫を抱えているため、小売価格に反映されておらず、高止まりを続けている。海外電気部品の値上がりにより収益に影響が出ている。中国での景況悪化の影響で、現地加工メーカーからの新規営業が増加している。	原材料価格下落 海外部品値上げの影響 中国経済の影響	その他の機械・同部品製造業
	売上高は昨年好調の裏返しで若干減少。但し一昨年同月よりは増加している。	売上減微減	食品・飲料品等製造業
	中国関係の機械の売上が悪く、全体としても良くない。	中国経済の影響	その他の金属製品製造業
	新規の引き合いはあるが、なかなか取り引きに結び付かない。	新規取引低迷	一般産業用機械・装置製造業
	価格の件で、インターネットを参考にした交渉をしてくる場合が増えて来ているが、弊社の仕事内容からすると、それに対応出来ない場合がある。	インターネットを基準とした価格交渉	印刷業
	東葛地区は小売店舗にとっては魅力的なので、競争が激しくなっている。他店との違いをどう出していくかが生命線だ。人手不足は相変わらず続いているし、益々その状況は悪化するだろう。辞めない社風づくりが大切である。	競争激化 他店との差別化 人手不足(辞めない社風づくり) 業況悪化	各種食料品小売業
	今月発売のスイーツ限定プレミアムチケットに期待。	スイーツ・パンプレミアム商品券	菓子・パン小売業

【平成27年月11業種別業界内トピックス】

卸小売	<p>10月と比較して天候に恵まれなかった。衣料品は婦人・紳士とも、序盤の気温上昇もあって、冬物商材のコートなど、重衣料および防寒アイテムの動きが非常に鈍く苦戦。宝飾・時計の高級雑貨は、時計が輸入商品を中心に好調に推移。食品・お歳暮は前半スタートから苦戦も、早期割引の後半になるにつれて回復。また、柏市内で利用できる「スイーツ・パンプレミアム商品券」は販売初日で完売。買い回り効果も大きく、菓子売上の伸長に寄与した。</p>	<p>天候不順(気温上昇) 冬物衣料不調 スイーツ・パンプレミアム商品券 菓子売上の伸長</p>	百貨店
	<p>材料原価高につき、容量を下げてのパッケージ変更が多くなっている(加工食品会社、乳製品など)。業況としては、11月前半は好調に推移するも中旬以降は天候悪化もあり、衣料品(特に肌着)の売上が落ち込む。食品、住居は安定。</p>	<p>原材料費高騰(パッケージ変更) 前半好調 衣料品不調</p>	その他の各種商品小売業
	<p>予想以上に気温が高い日が続いたため、冬物の売れ行きが良くなかった。</p>	<p>天候不順(気温上昇) 冬物商品不調</p>	その他の各種商品小売業
	<p>青果物は秋が平年より気温が高かったため、葉物類の成長が早く、入荷量の増加など、野菜の相場が安値傾向に転じています。果実は天候不順などから入荷量が減少しているが、食味良好から価格は一部の商品は高めに推移しています。これから寒さも加わり、鍋物料理や師走ならではの行事(クリスマスなど)における消費者動向の情報を取り入れて安定供給をして参ります。</p>	<p>天候不順(気温上昇) (入荷増による)野菜の安値傾向 果実の入荷減</p>	食料・飲料卸売業
サービス	<p>忘年会、新年会の予約が前年より早く入っております。しかし、いまだに金曜、土曜が集中しており、トータルでは前年と同じか、多少良くなりそうです。</p>	忘年会・新年会の早期予約	酒場・ビヤホール
	<p>柏の葉の近隣に複合店舗(スーパー、ホームセンター、ドラッグストア)の工事が始まった。その南にオープンする大型スーパーも工事が始まった。おたかの森との競合で超激戦区となり、先行きは不安である。オープン時には、人手確保のための賃上げ競争が激化しそうである。メーカーの値上げは、一服したが、値上がり前の仕込みで在庫負担と資金繰りが厳しい。また、様子見をしていたメーカーが消費税10%を念頭に来春に掛けて値上げの予告があった。</p>	<p>近隣の複合店舗、スーパーの工事開始 超激戦区 先行き不安 人材募集(高時給)の影響 賃上競争 厳しい資金繰り メーカー値上げ予告</p>	その他の飲食料品小売業
	<p>個人需要では、冬でも北陸方面が人気で、金沢市内のホテルは混んでいる。紅葉とインバウンドで、特に11月・12月の京都が混んでいる。その影響でいくつかの京都市内の観光個所近くでは渋滞が発生し、移動に時間が掛かることも。また、学生の卒業旅行の申込みが始まっている。海外では、パリでのテロの影響を受け、ヨーロッパ方面が伸び悩んでいる。その影響によるインバウンドの更なる増加と春節、受験が重なる第4四半期は、東京、京都、大阪はより混雑し、宿泊価格の更なる上昇が懸念される。法人需要では、近場の職場旅行の申込みが直前になるケース多くなっている。また、来年度の海外旅行の引き合いが増加。来年度の事業計画作成に向けた企業からの見積依頼が増えている。</p>	<p>北陸旅行人気 インバウンド 京都旅行人気 ヨーロッパ旅行不調 パリのテロ事件の影響 職場旅行</p>	旅行業
	<p>賃貸居住者の車の保有率が近年明らかに低下し、付帯の駐車場の空きが増えました。車以外の交通手段の整備拡充(バスやTX)か、単に車離れなのか、原因は定かではありません。</p>	車の保有率低下 空き駐車場増加	不動産賃貸・管理業
	<p>年末、年度末に向けた作業が集中している。来年度は不明。中小企業の景況感はいまだ薄く、人手不足も深刻。</p>	<p>年末・年度末作業の集中 実感なき景気回復 深刻な人手不足</p>	ソフトウェア業
	<p>売却希望客が徐々にですが増えています。問合せ件数は減少しています。購入に対して慎重になっています。</p>	<p>売却希望客増加 問合せ件数減少</p>	不動産管理業

◎人手不足

仕事量は多くなっており、人手不足になってきている。品質保持をするには、人手の確保も考えなければならず、工期の延長が出ている。

電気工事業

人手不足は相変わらず続いているし、益々その状況は悪化するだろう。辞めない社風づくりが大切である。

各種食料品小売業

◎天候不順

10月と比較して天候に恵まれなかった。衣料品は婦人・紳士とも、序盤の気温上昇もあって、冬物商材のコートなど、重衣料および防寒アイテムの動きが非常に鈍く苦戦。

百貨店

予想以上に気温が高い日が続いたため、冬物の売れ行きが悪くなかった。

その他の各種商品小売業

◎中国経済の影響

海外電気部品の値上がりにより収益に影響が出ている。中国での景況悪化の影響で、現地加工メーカーからの新規営業が増加している。

その他の機械・同部品製造業

中国関係の機械の売上が悪く、全体としても良くない。

その他の金属製品製造業

平成27年11月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲30.8に対し、「CCI-LOBO」が▲18.1で柏の方がマイナス幅が12.7ポイント大きい。全ての業種で「柏の景気」の方が悪く、特に製造業、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲27.1に対し、「CCI-LOBO」が▲11.1で柏の方がマイナス幅が16.0ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業である。柏の景気の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲38.2に対し、「CCI-LOBO」が▲16.3で柏の方がマイナス幅が21.9ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、それぞれ10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」の方が▲34.5に対し、「CCI-LOBO」が▲32.4で柏の方がマイナス幅が2.1ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業、サービス業であり、サービス業では10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△11.1に対し、「CCI-LOBO」が△16.2で柏の方がプラス幅が5.1ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業、卸小売業であり、卸小売業では10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲14.8に対し、「CCI-LOBO」が▲10.4で柏の方がマイナス幅が4.4ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、それぞれ10ポイント以上悪い。

平成27年11月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI \geq 50	好調 50>DI \geq 25	まあまあ 25>DI \geq 0	不振 0>DI \geq ▲25	極めて不振 ▲25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 30.8	 ▲ 21.7	 ▲ 27.7	 ▲ 52.0	 ▲ 13.3
CCI-LOBO	 ▲ 18.1	 ▲ 20.4	 ▲ 17.6	 ▲ 26.3	 ▲ 10.0

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 27.1	 ▲ 17.3	 ▲ 22.2	 ▲ 60.0	 △ 6.6
CCI-LOBO	 ▲ 11.1	 ▲ 16.5	 ▲ 12.3	 ▲ 19.6	 ▲ 1.4

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 38.2	 ▲ 17.3	 ▲ 50.0	 ▲ 68.0	 ▲ 6.6
CCI-LOBO	 ▲ 16.3	 ▲ 17.8	 ▲ 17.0	 ▲ 22.5	 ▲ 12.3

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 34.5	 ▲ 30.4	 ▲ 22.2	 ▲ 40.0	 ▲ 46.6
CCI-LOBO	 ▲ 32.4	 ▲ 34.5	 ▲ 26.1	 ▲ 39.6	 ▲ 32.7

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 △ 11.1	 △ 13.0	 △ 11.1	 ±0.0	 △ 26.6
CCI-LOBO	 △ 16.2	 △ 19.9	 △ 9.5	 △ 17.4	 △ 23.9

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 14.8	 ±0.0	 ▲ 22.2	 ▲ 28.0	 ▲ 6.6
CCI-LOBO	 ▲ 10.4	 ▲ 6.1	 ▲ 11.7	 ▲ 15.4	 ▲ 8.6

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CC I - L O B O

商工会議所早期景気観測(11月速報)

調査期間：平成27年11月13日～19日

調査対象：全国の422商工会議所が2960企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、ほぼ横ばい。先行きも慎重な見方変わらず、足踏み続く

11月の全産業合計の業況DIは、▲18.1と、前月から▲0.6ポイントのほぼ横ばい。インバウンドを含む観光需要や住宅投資の支えに加え、原油安による恩恵も一部でみられる。他方、人手不足に伴う受注機会の損失や営業活動への支障を指摘する声が多く聞かれるほか、人件費の上昇や価格転嫁の遅れなどが業績改善に向けた動きを鈍らせている。中国経済の減速や個人消費の落ちつきもあって、中小企業の景況感は、足踏みが続く。

先行きについては、先行き見通しDIが▲16.3（今月比+1.8ポイント）と改善を見込むものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。観光需要と住宅投資による下支えに加え、冬の賞与増や年末年始の商戦などを契機とする消費の盛り上がりも期待する声がある。一方で、人手不足や人件費の上昇、価格転嫁の遅れなどの課題を抱える中、新興国経済や消費者心理の動向など懸念

材料も多く、中小企業においては、先行きの不透明感から、慎重な見方が続く。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「住宅や小売店の新店舗などの民間工事が堅調だが、人手不足により、受注を選別せざるを得ない」（一般工事業）、「市をはじめ、公共工事の動きが鈍く、受注額は前年同月に比べ7割程度しかない」（一般工事業）、「同業他社との受注競争が激化。受注出来ても、人件費などのコスト増加分の価格転嫁について、取引先の理解が得られない」（電気工事業）

【製造業】「設備投資に見合う受注を継続的に確保できるか不安だが、自社の競争力強化のため、大型の新規投資を計画」（印刷業）、「人材確保が進まず、残業など従業員の負担が増大。賃上げにより新規採用を図りたいが、応募が少ない」（衣料品製造業）、「北米向けが好調な一方、国内の軽自動車向けの動きが鈍いなど、取引先による受注量がばらばら」（自動車部品製造業）

【卸売業】「取引先からの受注増を受けて、工場の能力増強を図りたいが、資金繰りに苦慮している」（フェルト製造・卸売業）、「好天が続き、薬物野菜の出荷が増加。そのため、取引価格が下落しており、利幅が少ない」（農産物卸売業）、「受注増に対応するため、物流センターの移転を予定しているが、能力に見合う人員を確保できていない」（建築資材卸売業）

【小売業】「お歳暮の取扱品目数を拡充したことが奏功し、好調な出足。あわせてイベントも企画し、さらなる集客増を図る」（百貨店）、「11月に入っても気温の高い日が続いたことで、婦人服を中心に冬物商品の動きが鈍い」（総合スーパー）、「最低賃金の引き上げに伴い、パート・アルバイトの人件費が増大し、収益を圧迫している」（商店街）

【サービス業】「ドライバー不足が深刻化しており、長距離輸送の受注ができない」（運送業）、「地方都市のため、今まで外国人観光客の来訪が少なかったが、欧米を中心に徐々に増えている。今後の売上増を期待したい」（旅館業）、「大手外食チェーンが

相次いで値下げしており、客足への影響が心配」（飲食店）

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
6月	▲15.3	▲15.1	▲12.6	▲20.6	▲19.8	▲11.6
7月	▲20.0	▲23.1	▲17.9	▲23.7	▲24.4	▲13.9
8月	▲14.9	▲19.1	▲13.0	▲15.5	▲23.0	▲6.5
9月	▲17.3	▲17.3	▲16.1	▲24.0	▲24.8	▲8.7
10月	▲17.5	▲17.1	▲17.4	▲21.8	▲23.1	▲10.7
11月	▲18.1	▲20.4	▲17.6	▲17.4	▲26.3	▲10.0
見通し	▲16.3	▲18.0	▲13.4	▲18.1	▲22.9	▲11.2